

主催/毎日放送

12月4日(日)「サントリー 1万人の第九」参加者大募集  
募集期間/6月6日(月) ~ 20日(月)

中でも、「サントリー 1万人の第九」は、プロではないけれど音楽が好きない人々々が主役。「こんなに心温まるコンサートがあるなんて」と、世界の奏者も驚くほどの演奏会で、「新しいことを始めたくて」「思い出作りに」など参加者の動機はさまざま。楽譜を読めない人やクラシックは初めての人といった。けれど、プロの先生による3ヶ月の練習を終える「声を出す魔法を知った」と上達を実感し、お披露

### 募集DATA

- 募集人数 1万人(抽選で選出)
- 参加資格 小学生以上で「1万人の第九」レッスン(★参照)と下記スケジュールに出席可能な人
- 佐渡裕レッスン 事務局が指定する次のいずれか1日  
11月17日(木)、18日(金)、19日(土)、20日(日)
- 総合リハーサル 12月3日(土) 午後4時~6時(予定)、会場/大阪城ホール
- 公演日 12月4日(日) 集合午前9時30分(公演時間:午後3時~5時40分予定)、会場/大阪城ホール
- 参加料 大人5000円、小・中学生3000円
- 募集期間 6月6日(月) ~ 20日(月)  
※6月5日(日)以前到着分は無効。6月20日(月)到着分まで有効。7月中旬に抽選結果を連絡。
- 応募方法 ホームページ、携帯サイト、往復ハガキで受け付け。※一人1件の応募に限ります。応募方法の詳細については、それぞれ下記のアドレスを参照してください。  
ホームページ・往復ハガキ  
<http://mbs.jp/daiku/>  
携帯サイト  
i-mode <http://i.mbs.jp/daiku/>  
ezweb <http://ez.mbs.jp/daiku/>  
vodafone <http://j.mbs.jp/daiku/>

### ★「1万人の第九」レッスンクラス

※下記クラスは全12回(クラスはほかにもあり。詳細は問い合わせを)。※欠席が3回を超えると本公演出演不可(参加料の返却はなし)。

#### 初心者クラス(神戸は、経験者と合同クラス)

大阪A	月曜日	午後3時~5時	8/15~11/21	会場①
大阪B	火曜日	午後6時30分~8時30分	8/23~11/22	会場②
大阪C	水曜日	午後6時15分~8時15分	8/31~11/16	会場③
大阪D	水曜日	午後6時30分~8時30分	8/24~11/16	会場②
大阪E	土曜日	午前10時30分~午後0時30分	8/27~11/19	会場③
大阪F	土曜日	午後1時~3時	8/27~11/19	会場③
大阪G	日曜日	午後1時~3時	8/28~11/20	会場③
大阪H	日曜日	午後3時30分~5時30分	8/28~11/20	会場③
神戸	火曜日	午後6時30分~8時30分	8/23~11/22	会場④

※①毎日新聞オーバルホール(西梅田)②大阪倶楽部4階(淀屋橋)③梅田東学習ルーム体育館(東梅田)④兵庫県民小劇場(神戸市)

問い合わせ  
毎日放送事業局内  
「サントリー 1万人の第九」事務局  
☎ 06 (6359) 3544 (平日午前10時~午後5時)  
<http://mbs.jp/daiku/>

### 友人と、恋人と、父や母と…。歌声でひとつになる

200年前、世界中の人が兄弟になりますようにと、メッセージを残したベートーベン。彼が命を懸けて作曲した「交響曲第9番」は、第九として愛され、年末にはさまざまなコンサートが開催されています。

その目、その瞬間、その場所を歌った人だけが知る喜び、それが「サントリー 1万人の第九」。友人や恋人と、父や母と、そして1万人の仲間とひとつになるとき、もしかしたら、人生を変えてしまうほどの感動



あのメダリストも大感激

昨年、シークレット・ゲストとして登場した金メダリスト野口みずきさんと、野村忠宏さん。公演直後には「みなさんが、この日のために頑張ってきた姿に本当に圧倒されました」(野口さん)、「シビれました。素晴らしいプレゼントをいただいたような気持ちです」(野村さん)と、感想を。



# 大人になってこんなに感動することなかった

毎年、12月の第1目曜日に、大阪城ホールで開催される「サントリー 1万人の第九」。下は6歳から、上は90歳以上まで、3ヶ月の練習をやり終えた1万人の合唱団が、世界的な指揮者・佐渡裕さんのタクトに合わせて、心をひとつに歌い上げます。その高揚感、感動に、「大人になって、こんなに感動することなかった」という声も多いほど。あなたも今年、1万人の一人になって、そんなドラマを味わってみてください。

「僕らがかっこよくベートーベンを創ろう」

### 歌い終えたドキドキ、幸福感 ~ 2004年、参加者の声から ~



「第九が終わった直後の拍手とフラボーの声に、感動して泣いてしまった」  
「1万人が並んだ風景だけにシビれます！」  
「どんどん佐渡さんの魔法にかかっていった」  
「音痴を少しでもなおしたいと参加したけれど、1万人のハーモニーに感激」  
「佐渡さんの指揮だけじゃなく、ときどき1万人の仲間を見ながら歌いました。この仲間と歌ってるってスコイ」

### 総監督・指揮/佐渡裕

7年前から総監督を務めているのが、パーンスタイン、小澤征爾さんらに師事してきた指揮者・佐渡裕さん。「このコンサートには、ヨーロッパの一流オーケストラと仕事する僕の毎日の中で、忘れかけていた大切なものがある」。顔に汗し、時に涙ぐみながら情熱的にタクトを振る姿で、世界的に有名な佐渡裕さんは、この「第九」にあふれる人間の力に驚かされると語ります。「普段、クラシックに接していない一般の人々が、ドイツ語の歌詞を一生懸命に覚えて僕に向かってくる。そのひたむきな姿に、僕もここまで続けてこれた。ベートーベンは気難しい人だったかもしれないけれど、僕は彼を素っ裸にしたい。『第九』には、力強く、歓びに満ちた女性や男性が登場してるんだからね。僕らがかっこいいベートーベンを創りたいんですよ」